

追伸：日本ダンゴムシ協会ではダンゴムシの事件簿を募集中です。ダンゴムシにまつわる事件、面白いエピソードがありましたら、ぜひお知らせください。

はなまるHピソード、ポンポーン

すとうあさえ

夫「きょうは、だれと遊んだの？」

私「かず子ちゃんと、しんpei君」

夫「えつ、でも、かず子ちゃんとしんpei君は気があ

わないだろう」

私「そうよ。だから、この子は大変だったのよ。か

ずちゃんと少し遊んだら、今度はしんpei君って
いう感じで、大いそがしよ。毎度のことだけど

ね」

夫「なんで、うちの子は人気があるんだろうね」

私はははは。決まつてゐるぢやないの。カツワイイもん！

夫
〔うん、うん〕

これは最近、いえ、正確には一〇〇一年七月から

「我が家で毎日スズがおしゃべりする会話のいの一番です。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、実は、飼い犬の話なんです。『うちの子』とは、この五月に二歳になる柴犬の男の子「まる」。しんぺいは、

日本犬の原型（飼い主さん曰く）を残しているミックスで、「我輩はペットではない」というプライドをもつ男の子。地鳴りのような唸り声をもち、他の男の子には挑戦的で、お医者さんにも囁みついたという武勇伝の持ち主ですが、まるとはなぜかフレンドリーです。かず子はダックスと柴のミックスでとても愛想のいい一歳の女の子です。



まるが家にきてから、我が家家の会話はほんとにボンボーンとよくはずみます。以前からもよく話す家族でしたが、双子の息子が大学生になつたころから、どちらかというと静かにみんなで語りあうとう感じでした。それが、まるがきてからというものが、昔の会話のノリが俄かに復活！ 息子たちが幼かったころ、きょうは砂遊びをしてパンツの中まで砂だらけだったとか、幼稚園の誕生会で「大きくなつたらブタになりたい！」と元気に答えたとか、園庭の霜柱をおじいちゃんのおみやげに持つて帰つてきたり泥水になつて泣いたとか、小さなできごとを夫や父や母に話しては、みんなで笑つていた、あのノリ。二人がなにをしても、大人たちは、「な

んていい子だ」「なんて面白い子だ」とおおらかに受け止めて笑っていたときの、あのあたたかな平和的雰囲気ただようノリです。

会話がどのように展開するかといいますと、まず、朝の散歩担当の夫から、お散歩エピソードをききながらニコニコガヤガヤと朝食をとり、夜は夕方

散歩担当者やその日家でまとると一緒にいた人を中心には、「きょうのまるちゃん報告」で、盛りあがりながら夕食、という具合。その内容は、「きょうは、だれと遊んだ?」と「まるは、ほんとにカッワイイんだから」の二つは必然的に入ることになつていますが、その他は、枯れ葉が風に舞つてとぶのをまるが追いかけてかわいかつたとか、桜の枝をくわえて歩く姿が「木枯らし紋次郎」みたいだつたとか、工事監視員のおじさんに、「立派な犬だね」とほめられてうれしかつたとか、なんばほの綿毛をとばしたら、びっくりしてワンツとほえたとか、見事に、ほ

んとに見事に、犬馬鹿会話一色。関係者以外には興ざめするような内容ですが、私たち家族にはかなり癒し効果があるようです。その日にいやなことがあつても、まるの話を聞いて笑うと一気に楽しくなつて、気持ちまではずんできちゃうのですから不思議です。

会話がはずむといえば、私が担当している幼稚園の遊びのクラスの後も、パートナーの千春さんとよく話が盛りあがります。はずみをつけてくれるのは、子どもたちのすてきな感覚です。例えば「きょう、げんくん、コンクリートの穴に絵の具で色をぬつてたら、その穴が急になんかこわい生き物が住んでいる池にみえてきちゃつてね。面白かったねえ」とか「私が内緒話をして、誰にも言わないでねつていいたら、ちずちゃんが『私の心には言つてもいい?』って言つたのよ」というように、しばしうつとりしちやうような話もあります。夢の世界に

半分住んでいるような子どもたち。そんな彼らの面白い世界を保育者同士話しはじめたら、会話がはずまないわけはありません。そして、どうも「子ども」には活性効果もあるようです。疲れていても、よしつ、今度はどんな面白いことをして遊ぼうかなつて、エネルギーとアイディアが湧き出てくるのですから不思議です。

ます。あたたかくなれば、まるの散歩も長くなつて、まる話もますます充実し、我が家のお家の会話ををおいにはずませてくれることでしよう。ここで、まるに感謝をこめて、はなまるをあげたいと思います。はなまるまるちゃん、ちょっととくたびれやすくなつてきた私たちに、これからも楽しいエピソードをよろしくお願ひします。

(幼年童話作家)

会話が楽しくはずむときって、話しあう人たちが、その話題に対し無条件に興味と好奇心と深い愛情を抱いているように思います。我が子だつたり、犬だつたり、幼稚園の子どもたちだつたり…。楽しく会話をはすませてくれるものが日常の暮らしの中にあるって、ささいなことのようだけど、実はとてもハッピーなことなのだと思います。そして、もちろん、一緒にはすんでくれる人たちがいるといふこともしあわせなことです。

